

大正十五年五月一日

- 一 労働費の増大と對全十の發進を阻す
- 一 労働組合の崩壊と對全十の發進を阻す
- 一 労働組合の崩壊と對全十の發進を阻す
- 一 失業の増大と對全十の發進を阻す
- 一 無職者が増大し、對全十の發進を阻す

大 誌

宣 言

今や日本の資本家階級は社會の安定と景氣の回復を唱へてをるけれど、其此安定と景氣の回復は無産階級に對する搾取率の増大に依つて齎らされたる一時的の安定と部分的の景氣であつて一般無産階級の悲慘と隸屬と其生活の不安は益々深刻となりつゝある。

見よ！街頭に投げ出されたる失業者の大群を！

數百萬の兄弟は業を得る能はず解雇は續出し賃銀は低下し物價は高く労働條件は至る所極度に改悪され爭議は至る所に勃發しつゝある。是てはないか。斯の如き資本家階級の攻勢に對して労働階級の陣營を見るに僅かに二十餘萬の組織労働者が數箇の聯合体と十數箇の組合に分離し其陣營は四分五裂の悲むべき状態にある斯の如き状態を整理し其全勢力を統一する事は今や全國に漲りつつある組合組織の機運を助長し無組織大衆を動員する爲にも亦當面の急務である吾人は一切の感情と行掛を脱して労働階級の大同團結を計らねばならぬ。